

横浜国際港都建設審議会

第5回部会 第3部会（地域自治・公共の創造関連）

平成17年11月14日（水）

《出席委員》跡田直澄委員（部会長）、伊東満委員、内海麻利委員、尾崎有紀子委員、  
小林由美子委員、辻琢也委員、堀口真寿委員、横山栄一委員、  
吉川知恵子委員、米内顕二委員

<欠席>黒川澄夫委員

議事

【部会長】

それでは、始めさせていただきたいと思います。

本日は第5回の横浜国際港都建設審議会、第3部会でございます。審議の進め方とい  
たしましては、第2回の起草委員会とりまとめに基づきまして、答申案全体の構成と内  
容のほかに、表現やキーワードなどについてご審議いただきまして、本日で一応第3部  
会としての最終的な意見を集約させていただきたいと思っております。予定は予定でご  
ざいます。まとまらない場合には、もう一回やらないといけないということもあるかと  
は思いますが、型どおりで終わらないのが第3部会ではないかと思っておりますので、できれ  
ばご協力のほどをよろしくお願いいたしますという、部会長的発言をさせていただいて、早  
速始めさせていただきたいと思います。

それでは、最初に事務局から資料の説明等で、大体30分ぐらいを見込んでおります  
が、全体像をよろしくお願いいたします。

事務局より資料説明
-----------

【部会長】

どうもありがとうございました。

それでは審議に入りたいと思いますが、今、全体的に説明していただきましたので、  
全体的にもご意見が多々おありではないかと思っておりますが、最後の部会ということもあり  
まして、一番まだまとまりがよくなかった、最後の「5 実現のための基本姿勢」とい  
う、この冊子のほうの5番のところ、これが、実は第3部会が一番かかわらないといけ

ない部分と、起草委員長からも言われまして、ここの部分を、第3部会で少し議論して、まとめていただきたいという、特にご要望というか、ご意見をいただきましたので、きょうは最初はそのこのところに少し集中させていただいて、その後、全体のほうにお話を移していかにさせていただきたいと思います。

それで、今、連続して事務局のほうでお話をさせていただきましたが、全部の部会に提示されています「実現のための基本姿勢」という部分について、まず何よりも、それ以前の部分と表現が違い過ぎるという指摘がございました。といいますのは、今回の答申案というのは、全部主語が「私たち」という形で、横浜市民全体の人たちがどう思うか、どう考えるか、どうするか、どうやるかという形で表現しておりましたが、この「実現のための基本姿勢」の原案では、どうも「私たち」だけではなくて、「企業が」とか「行政が」と。特に11ページのところが、全部「横浜市」というものが主語になった形での表現になっているので、もともと「横浜市の基本姿勢」というような書き方だったので、どうも違和感がある。全体との調和を図ってほしいというようなご意見が強くございました。

そこで、全面的に組みかえをしようということ、そして「実現のための基本姿勢」というような表現ごと、ちょっと変えてみる。「実現する仕組み」というような形にしまして、その表題としては、10ページの下にありました「新しい公共のあり方」というところの、この「新しい公共」という言葉をそのまま使いまして、5番の表題にしたいという、それが私のメモの最初の大きな変更点でございます。「新しい公共の確立」というわけですけども、平たく厳密に書けば、おそらく新しい公共サービスを提供する手法を確立するというような意味合いだと思います。それを、少しはやりの言葉として「新しい公共」というような言い方が最近でき上がってきましたので、そういう言葉を使わせていただきました。まだあまり耳なれた言葉ではないので、最初に「新しい公共の創造」ということで、文章的に少し表現させていただきました。サービス提供主体が、今までは公共イコール行政ないしは政府ということに限られていたという、そういうことに対して、提供主体を広げていくというのが、新しい公共の創造であり、その広げ方というのが、どういうふうに広げていったらいいのかという議論となりますので、それが「新しい仕組み＝『開かれた場』の創設」というような黒ポツ4つにつながっていくということでございます。

そして、「横浜市の基本姿勢」というような、横浜市が主語にならないような形で、2

番のところでは「協働による大都市の運営」ということで、自治と経営についての考え方を表現するというところでございますけれども、裏のページのほう、ア、イ、ウ、エ、オというのは、極力全部「私たち」が主語になるように表現しております。ただ、何とでもなっていないところというのは、オのところは、ここはもうちょっと書きぶりを考えないと、どうしてもこれは「私たちが」が主語とは言いがたい。ただ、周辺自治体との連携というテーマですので、近隣自治体との連携を図りますという、やはり主語は「横浜市」かなということになってしまいますけれども、もうちょっと私たち市民が連携を進めていくというような表現にすればいいのではないかと思います。最後のオのところだけには、まだ私の意図が十分に反映し切った文章にはなっておりませんが、この段階で提示させていただいたということでございます。

この中で、論点としての過不足、それから内容的な過不足を少しご指摘いただければという意味で、部会長メモというのを提出させていただきました。ちょっと説明が長くなりましたけれども、起草委員長及び他の部会でもいろいろご意見が出ているようですので、そういうことも含めまして、きょうご議論いただければと思います。

では、ここからは、いつものようにご自由にご発言いただきたいと思います。

#### 【委員】

内容というよりも、ちょっと質問させていただいてから、意見を述べさせていただきたいと思うのですが、冊子の10ページの「実現のための基本姿勢」というところが、今回部会長のメモとして出されているところというふうに理解して、差しかえになるという考え方なのか、あるいはメモに沿って、冊子の10ページのほうを今後検討されるということなのか、その位置づけだけお教えいただけませんか。

#### 【部会長】

基本的には、差しかえということイメージしております。ただ、まだ原案ですので、大幅な修正ということもあり得るということでございます。

#### 【委員】

もうここまで議論が成熟した段階にあるので、今さら各論的なことで、何を盛り込むとか、そういうことは言い尽くされているという前提でお話をしたほうがいいかなと、基本的に思っています。

最初に、「実現のための基本姿勢」という、起草委員会がつくられたもの、とじ込まれているほうを見たときに、私も思いましたのが、市と市民というのが対峙する立場のよ

うな形で構成されているので、これはやはり協働という、これまで部会の中で話し合われてきた、新しい公共のあり方を考えるときに、分離、対立するような書き方というのはちょっとどうかなという意見を、私も持っていました。それから、おっしゃるように、市民だけではなくて、今回の部会長メモに反映されているように、企業ですとかNPOといった存在も取り込んだ、実現のための姿勢にするということは、私も大いに賛成です。

ただ、1つ大きな点で質問があるのが、「私たち」という主語の、私は個人的には抵抗を覚えるところがあります。理由としては、市民とか、今回部会長メモは、よりそら辺を明確に打ち出されて、それぞれの立場に応じて期待する役割ということで、それぞれの立場をこういうふうにしますという形で書かれているのですけれども、そもそもこの長期ビジョンというのは、やはり横浜市が、将来の、20年後の横浜のあるべき姿を考えて、こんな都市づくりをしていきたいという提言という立場なのではないかと思うんです。そのときに、市民はこうなさいとか、NPOはこういう立場でいてくださいとか、それを言うというのに対して、正直言って、私はどうも抵抗があります。ですので、それぞれの立場というようなことを、このような切り口で打ち出す必要があるのか否かということについて、多分起草委員会ですとか第2部会で、その辺のご意見が出たことを踏まえて、部会長メモがつくられているとお察ししますので、もうちょっとその理由を教えていただけたらと。

私なりに、市民と横浜市が対峙しない、くくり方としては、やはり市民力等の活用による新しい公共のあり方というのを一つのくくりとして、最初のとじ込まれているものの中から幾つか拾ってくると、(1)にあるものと(2)に書かれているものをまとめることで、その項目が1つできるだろう。後でまた個別にご説明することが必要であれば、一応考えてきましたので、ご披露しますが。2つ目の柱として、今回の部会長メモでは抜けているんですが、議論の途中で出てきた都市経営の視点みたいなものを一つの柱として出して、財政のことですとか、地方自治の自立の推進だとか、近隣自治体との連携とか、そういったことを柱にして、2つ目の柱をつくったらどうかと。3つ目は、多分この部会とはあまり関係がないのしょうけれども、第2部会が、横浜らしさということで、ご提言がかなりいろいろとあったように伺っていますので、そういったところで、国際貢献の取り組みだとか、とじ込まれている中にうたいこまれている項目を、3つ目の柱としてまとめると、行政と市民というような対立型のまとめではなくて、み

んなで新しい横浜をつくっていくんだという協働の視点の中で、テーマごとに姿勢がつかれるのではないかなという気がしてきました。

ですので、特に私として関心がありますのは、このア、イ、ウで書いた、それぞれの立場からの姿勢ということ盛り込まれた背景を教えてくださいたいと思います。

#### 【部会長】

盛り込まれた背景といいますか、基本的にやはり最初の「実現のための基本姿勢」の中にある、各主体に対してのミッションをそのまま踏襲しているということで、基本的には「住民、地域組織、NPO」という、市民側と言ってもいいかもしれません。そして、もとの文章では、企業は、ほとんどのところは市民の中に入っている形で表現されていますので、そういう市民側として、アとイの、これは役割というよりは、やはり基本的にとってほしいスタンスというような、役割というよりはスタンスだろうと思うのですけれども、スタンスをどう訳すかがまた問題になるのですけれども、どちらかという姿勢だろうと思うんですが。そして、行政についても、市民側がどういう姿勢をとってほしいかということ、ここでは表現するというので、ア、イ、ウができていう、そんなイメージです。前の基本姿勢というので、それぞれが主語になって出たのを、市民側から見た「私たち」という表現の中で、ちょっとあらわしているというのが、ここでの入っている、入り方と言ったほうがいいかもしれません。

確かに「地方分権の推進と自治体連携」というところが、今度はちょっと弱くなって、「協働による大都市の運営」という中の3者による協働ということと、地方分権ないしは自治体の連携というところを、ある意味では協働というようなイメージにのせて、ここへ落としたわけですが、ご意見は、私は、基本的には、ここをむしろ(3)番ぐらいに上げるということも、あまり反対ではないです。ただ、そうしたときに、何かもとに戻るような部分が少し、横浜市という行政体の主語が表に出てくる部分が出てきそうなのもあるので、書きづらい部分というのがあるので、このぐらいの表現にしたということでございます。むしろこういう財政の立場から、そこをあまり強調しないほうがいいかなと思って、ひ弱になっているとお考えいただいたほうがいいかもしれませんが、ご意見としては、私は、内心は大いに賛成なのですけれども、部会としてどうするかというのは、また皆さんのご意見も伺いたいと思います。

お答えとしては、大体よろしいですか。

#### 【委員】

そうですね。ですから、ほかの委員の先生方にも、長期ビジョンの作成の中で、姿勢として、市民はどういうふうにしていくかというようなことの記述の仕方を書くことについて、ご意見を伺っていただけたら、「市民は」とか「企業は」とか、ここら辺の部分について、ご意見を伺っていただけたら幸いかなと思います。

#### 【部会長】

書きぶりの問題でもあり、少し自治憲章のような形で、それぞれの役割を書いてあるというのが、ちょっと表現の仕方のまずさということと、こういう書き方が、入れ込み方がいかかという点もあると思いますので、少しご意見をいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【委員】

私も、この10ページの「実現のための基本姿勢」のところだけは、今一つしっかり来ないなという印象で、実は、きょうここにやって来たところだったんです。特に、何となく全体の流れが微妙に違うという部分ですとか、あるいはやはり企業の基本姿勢のところでも、もちろんこれは、書かれてあることの趣旨は非常に理解できるのですが、その表現がかなり微妙で、企業にそこまで、「努めます」とか、そういうふうな言い回しが、果たしていいのだろうかというふうな気がしていたんです。

それともう1点は、「私たち事」というんでしょうか、この言葉が非常に耳なれないと思いますか、初めて見た言葉で、いろいろご苦労されたんだらうなというのは思ったんですけれども、個人的には、これはちょっといただけないなと思ってしまった言葉であったんです。それが、先ほどの部会長のメモのほうでは、まず、「私たち事」という言葉が消えているので、ホッとしたのと、それと全体の流れとしては「新しい公共の創造」というところから始まって、それから「協働による大都市の運営」というところで、それと、それぞれの都市を構成するそれぞれの主体ごとに、何が本来担うべき役割なのかという、理想なところが書かれてあって、流れとしては非常に受け入れやすいものは感じたところではありました。

先ほど委員がご提案された「私たちは」という主語につきましては、確かにこれをずうっと読んでいますと、かなり微妙な、表現とても難しいと思うんですね。この原稿を書かれる方々というのは非常に悩まれると思いますし、とても難しいと思いますので、何とも言いようがないのですが、逆に日本語のあいまいさをうまく使って、「私たちは」という主語をなくすような形で、それぞれ期待する役割といたしますか、期待する立場み

たいなものというものは明確に書いておくことのほうが、後々主体ごとにわかりやすいかと思しますので、流れはこれでいいのかなとは思うんですけども。

#### 【部会長】

どうもありがとうございます。

基本的に英語の「we」ですから、日本語としては書かないほうがいいですね。ですから、先ほども説明したとおり、今までの文章が、主語は「私たち」という言葉があるんですけども、文章を読んでいただいたら、ほとんどのところ、「私たち」などという言葉は入っていないんです。ですから、この文章も、「私たち」という言葉は全部消していただいても、主語は「私たち」であるというのはおわかりいただけると思いますので、ちょっと強調し過ぎたというのがあると思います。日本語の文章としては、同じ言葉を何回も何回も出してはいけないわけなので、どこか最初に一回、「新しい公共の創造」というところに「私たちは」が入っていますから、もうここだけで、裏のところの「私たちは」は全部消していただいても、文章はそのまま通じると思います。ただ、主語を「私たちは」という形にしておきたいという意図でつくられたとお考えいただけたらと思います。

「期待する役割」という表題がついているのが、ちょっとひっかかる場所もあると思います。役割を書いているというよりは「活動します」とか、「基本とします」と、「進めていきます」ということなので、あまり役割ではなくて、言葉がちょっと出てこないんですけども、表題のほうを変えたほうがいいのかもかもしれませんが、でも、一応はこうしてほしいという希望的役割論になってはいると思いますので、その辺ちょっと問題点になるのかもしれませんが。委員から提示された問題も含めて、その他お気づきの点、ありましたらどうぞ。

#### 【委員】

その役割とも関係するんですけども、この部会長メモで見ていくと、実現のための基本的な姿勢として、市民がどういうふうに取り組むかというところをうまく整理していただいていると思います。その中で、やはり「新しい公共」という言葉を持ち込まれて、これまでも横浜市ではこの言葉を使っていたけれども、それをしっかりと定義化して示していくという意味では、非常に整理されて、必要要素が入っているのではないかなと思っています。それともう1つ、協働という言葉も、横浜市はこれまでたくさん使ってきて、それを改めてここで整理し直しているという意味で、非常に意味がある

のではないかなと思っています。

ただ、役割との関係でいきますと、協働ということは、協働社会とか協働というのはかなりあいまいで、そこで重要なのが、やはり責任のもとに役割分担を明確にしていくということが、新しい公共とか協働を実現していく上で必要になってくるのであろう。そういった内容を、前段の、例えば「新しい公共の創造」というところでお示しになったり、あるいは（２）のところ、協働社会を実現するためには、責任のもとに役割分担を明確にするということを明示してあることを前提に、裏面のところの、それに対してどういう役割分担が考えられるのかという流れにつなげていくことができるのではないかなというような気がしております。

それともう１点、この部会長メモは、先ほど言いましたように、要点が、重要なところがまとめられていると思うのですが、前段のビジョンとの関係が少しくまいていないような気がするんです。それは、委員がおっしゃられたようなところを言っているのですが、したがって、「新しい公共の創造」を、前段のビジョンの描き方との関係で少し言葉添えをすると、より理解が深まるのではないかなと思います。

**【部会長】**

どうもありがとうございます。

**【委員】**

基本的なことかもわかりませんが、また質問してもいいですか。最初の１０ページと１１ページのところ、ありますよね。これとこれを差しかえたらどうかというあたりも検討してくださいということですね。

**【部会長】**

はい、そうです。

**【委員】**

それで、多分内容的なものは、ある意味、非常に整理された形で、この裏表のメモになっていると思うのですが、わかりやすさというか、パッと見た感じのわかりやすさという点では、メモのほうの５、「（１）新しい公共の創造」というふうになっていますね。ここの部分に、ここの１０ページのほうのところはかなり織り込まれている形だと思いますけれども、何か文章でだらだらと入っているから、だらだらという言葉は悪いですね、要は文章で入っているから、パッと見のポイントとしてのわかりづらさ。１０ページのほうに書いてあったような、黒で太字で、一応ポイントを上げて、中身の

説明的な打ち出し方をしていますね。そのほうが、形としてはわかりやすいかなと思います。メモのほうの（1）として「新しい公共の創造」、「私たちは」というところから始まって、ワーンと入っていますね。こういうのはわりと読み流してしまうような形がして、印象が薄いという感じが非常にしています。

それから11ページのほうの、例えば横浜の都市経営の進め方等というのを、「行政が」というのは、ある種、当たり前のことであって、「私たちが」とか「市民が」という、主体が市民、主役が市民という打ち出し方はいいんですけども、そこにあまり絶対に「私たち」が市民でないといけないというような、かたく、狭いとらえ方はなくてもいいのではないかと思います。横浜という都市であり、ガバメントであり、行政体が行政体として、こういうことをというのは言ってもいいと思うので、すべてを「市民が、市民が、市民が」ということでなくてもいいような気もしています。

ざっと見て、一応そんな感じを思ったんですけども、これとこれを差しかえるということ、非常に違和感があるんですね。あまりにも形態が違うような感じがして。内容はともかく。それと、左のほうで「私たち事」というのは、私も、これは造語、「私事」を「私たち事」いうことに変えて、みんながというふうな意識づけなのかなと思って、新しい言葉であろうなとは思ったんですけども、10ページのほうは、「私たち事」という言葉がいいかどうかはともかく、わりと個々にわかりやすい書き方がしてあるような気はするんです。だから、やはりこういうものを打ち出すときには、短い文章の羅列のほうが、とらえ方としては入っていくし、とらえやすいというのがあるのに加え、このメモのほうは非常に漠然として、薄いかなという印象を受けました。いいところもあるし、悪いところもあると思うんですが、全体の中身というよりも、この形の変え方については、そのような感じを持ちました。

#### 【部会長】

ありがとうございます。結構学者的という、わかりづらいというのは、ご指摘のとおりだと思いますので、もう少しほかの、前段のところとの表現の仕方とも調和するような形にまとめさせていただくということは可能だと思いますので、その方向にさせていただきます。

#### 【委員】

今、いくつか議論が生まれて、今までの議論に対して、3点ほど意見を言いたいのですが、1つは「私たちは」の問題は、先ほど座長が言われたように、前を読んでみると、

「私たちは」を連発しているのは、主に「3 めざすべき都市像」のところなんですよ。ここに、「私たちは」というのと「横浜は」という主語がよく使われていて、ここ以外の部分はあまりそういう言い方をしていないので、多分座長の言われたような形で、「私たち」を除いて書くということになれば、大体それでうまくおさまるのではないかと思います。

それから、先ほどから議論になっているところの、差しかえる前のものは「横浜市民の基本姿勢」と「横浜市の基本姿勢」ということになっていて、この横浜市民のところ、確かに「私たち事」という言葉もあって、ある程度わかりづらかったところがあるのは事実で、会長のメモによってわかりやすくなったのは事実だと思うんですね。このわかりやすさは大事にしながら、しかし、このアとイのところ、今までの議事録とかも考えながら、かなり細かいところ、落っこちていたところもあるので、なるべくその要素をつなぐように入れていくといいのではないかなという感じはしていました。

3点目は、ただ、私もちょっと違和感を感じるのは、「それぞれの立場に応じて期待する役割」のところの、いわばメモの後ろ書きのほうで、特にこの中で、行政の役割として、あえて2つ言っていて、コーディネーターとしての役割と、治安の維持や大規模自然災害の対策等の場合に、権利を制限したり、義務を課すということになっているんですね。しかし、本来、市の役割を考えますと、特にこれからは増税の時代なので、やはり固定資産税と市民税を集めて、それで義務教育や消防、その他ベーシックなサービスをきっちり提供していくというところに中心があることを考えると、確かにコーディネーターとしての役割も期待されていますが、これ以外のベーシックなところがあって、それから治安の維持まで行って、権利を制限して、義務を課すことまであえて書くかということになると、この行政の部分については、エの部分も含めて、差しかえる前のほうの11ページのところにいろいろとノウハウを、部会長の発想も含めて入っているところも多いと思うんですね。だから、これも(2)の最初のリードの文章ですとか、アの直後の文章ですとか、ややかたいところとか、わかりづらいところがあるのが事実で、ここの部分については、やはり差しかえる前のものも使いながら、もうちょっと行政の、本来基礎自治体として果たすべき役割、そこのところを中心に書き加えたほうがいいのではないかという感じはしました。

#### 【委員】

私は今、ちょっとお聞きしてしまして、議論の流れのような感じで、ちょっと思っ

いましたけれども、特にこの役割の関係、期待する役割のほうですね、ここのところを見たときに、1番の横浜の将来像で掲げた2つですよ。1つは市民力という切り口の中で、この役割をどういうふうに見ていくのかということ、もう1つは、その中に横浜らしさというものをどう求めていくのかというのが、これはやはりつながっていなければ、それぞれのまた別の課題に取り組んでいるような形になりはしないのかなという感じがいたしましたので、個々のそれぞれの切り口はまたいくつか変更はあるかもしれませんが、その中に市民力というものをどう求めていくのか、20年後、どういうふうに発展させていくのかという部分と、横浜らしさという部分をどう織り込んでいくのかという。例えば今、委員がおっしゃったような、災害だとか何とかといったときに、一般的に公益的なものとかは、今までもずうっとやっているわけですね。それを発展させていけばいい。その中に、横浜らしさというのを、どうつけていくのかというのが、ある意味ではポイントになってくるのかなという、こんな思いがすごくしましたので、ぜひそういう観点も含めてご検討いただければと思っています。

それから、あえてちょっと、別の部会でも議論があったようなんですが、市民と企業と行政というくくりになっているんですね。この企業というのが、よその部会でもあったようなんですけれども、企業というものを、改めてここで一つの大きな柱としてとらえておくべきなのか、そうではないのかなという議論も、いくつか、どういう経緯があったのか、少し先生のほうからあれば、お聞きしたいのと、私は、この企業という、単独でここでとらまえていくのがいいのかどうかということ、もう少し議論してもいいのかなという思いがしました。

#### 【部会長】

企業を入れるというのは、やはり営利部門というものが厳然と存在していますし、市民力という中には、広い意味では経済力という言葉も入ってくると思いますので、そういう点では、企業というものをやはり一つのパートとして置いておいたほうがいいのではないかと。そしてその企業に対して、一定の役割と言ってもいいのではないかと思いますけれども、私は、ある意味では社会の公器というような、公の器という、そういうような企業になってほしいというか、そういう企業が、横浜に集まってほしいというような意味合いで、こういうような一つの役割論の中に置きたいという気持ちはございます。ただ、市民という概念でいくと、とりたてて言わなくてもいいという部分もあるのかもしれないのですが、少し経済的な側面から、いてほしい、育ててほしい、しかし、

ある意味では、公害を出すだけの企業では困るというような、そういうイメージを込めて、こういうふうの一つ独立させているというところがございます。

**【委員】**

言葉のことなので、全体のことではないのですけれども、この裏側の「それぞれの立場に応じて期待する役割」と書いてありますよね。これは、期待するというからには、主語があるわけでしょう。これは、「私たちは」、「市民が」ということだと思うんです。企業のところも、最初のところに「私たちは」云々かんぬん「期待します」と書いてあるように。でも、ここは、上のところは「私たち」は期待される側になるわけけれども、住民とか、NPOの書いてあるところね、ここは、むしろそれぞれの立場に応じて、期待される役割のほうがいいような感じがする。期待する役割って、言葉としてすごくおかしい感じがします。それぞれの立場に応じて期待する役割。市民が期待する役割ということなんだろうけれども、立場に応じて期待される役割というほうがわかりやすいような気が。ずうっと読んでいて、思ったのですけれども。

**【委員】**

1点よろしいですか。先ほどのビジョンとのつながりがなくおっしゃっていたご意見もありましたし、ビジョンというか、実現の方向性とか、あと、今、出ました横浜らしさというのを、私も先ほど申し上げましたけれども、やはりその視点が抜けているということで、やはりそれをぜひ盛り込んでいただきたいということと、実現の方向性の中に、盛んに「世界の都市と交流し」とか、国際性とか、都市像の中でも、Ⅱ番とか、あるいはⅢ番も関係あるんでしょろが、いろいろなところで、世界との接点ということがうたわれていますので、やはりそういう人たちを積極的に受け入れていくという前提の中での取り組むべき姿勢というか、例えば多様な文化ですとか価値を持った人々との共生のあり方、そういったものについても積極的に取り組んでいくといったような姿勢を、実現すべき基本姿勢なのか、部会長のタイトルなのかわかりませんが、そのところにも是非入れていただいたらいいのではないかなと思いました。

**【委員】**

私も、今、委員がおっしゃられたように、前段とのビジョンとの関係で、どこを整理するかというようなことは是非加えていただきたいという点と、もう1つ、ビジョンとの関係でいいますと、前段で言っている言葉が、ここにうまく落とし込まれていない、つながっていないような気がしております、主にというか、主要なものとしては、住

民、地域組織、NPO、企業、行政とかというところが、前段で、あまりそういった切り口で整理されてきていないというのがありますので、もし市民力であったり、地域らしさというようなところから出てきた役割分担としていくとするならば、これはほんとに枠組みのお話なんですけれども、例えばアとイというのは、両方市民という形でくっってしまったって、その市民の力の中にアとイがあるというようなとらえ方をすると、前段の市民力というところから少しつながってくるのではないかと。それに対して、もう1つウというのがあると。その構図のほうが、市民あるいは民意と、それに対してどうなのかというところが、構造としてわかりやすいのではないかなというように、1つの案としてご提案しておきます。

**【部会長】**

ありがとうございます。ほか、いかがでございましょうか。

**【委員】**

ドラスチックなことを言って、恐縮ですが、書き過ぎているのかなと。全体的な文章を3分の2ぐらいにして、やられたほうがいいのではないかと。相互の関係がやはり非常にわかりにくくなっているのは、書き過ぎていて、どこに何を書くかというのがあまり構造的にとらえられていないのではないかと。全体のことを言ったところ、ブレークダウンするところの位置づけがあまりはっきりしない。最後のところで、部会長から出していただいたのは、私は、逆に、これをもうちょっと3分の2ぐらいに減らしたほうがいいのではないかと。つまり、基本姿勢というのは何を書くところ何ですかということが明確になっていない。基本姿勢というのはほんとに姿勢を書いているのであって、具体的なものを書かないという、前にも何かそういう議論があったと思うんですが、書かないほうがいいのではないかと。それは、余地を残しておいたほうがいいのではないかと感じました。

それからもう1つ、では、議会との関係というのはどうなっているのですか。前にも、これは議会とは関係ないとか、議会と関係あるとか、いろいろあったと思うんですが、議会とか、そういうのはどういう位置づけなのでしょう。読んでいて違和感を感じるの、この前段のところもそうなんですけれども、全然出てこないのと、そういう場を設けますというところ、議会というのはどういう関係があるのかなと、ちょっと感じがいたしました。

**【部会長】**

まず、前半の細かいことを書き過ぎているというご意見については、若干そういうところもあるとは思いますが。基本姿勢というところから、実現する仕組みというところまでイメージしたもので書こうということにいたしましたので、その辺が、基本姿勢というところから一步踏み出してはいると思うんですけども、その辺は、ちょっと踏み込み過ぎの部分は弱める形にしたいと思いますけれども、起草委員会のほうで、皆さんから出たところというのが、基本的に、今の「実現するための基本姿勢」のところあまりにも弱過ぎる、どういうイメージを持っているのかがよくわからないというのでご意見があって、それに対してもう少し明確な仕組み論をしておこうということを書いたということなんですけれども、書いてあるわりには、内容がまだちょっと足りないということなのかもしれませんし、表現のまずさというところが、まだ多々あるのかなと思います。ただ、内容をもう少し厚くしてこいという宿題が出たものですから、踏み込んでいるというのが実態でございます。

それで、議会との関係というところは、基本的に、これ自体は、議会が改めて議論していただくというもので、最終的なものというのは、議会が完全にこれを了承していただける形になるということなので、この中で議会の位置づけを何か書くということ自体は、あまりイメージしていないのですけれども。

#### 【委員】

それは、この場を設けるという言葉と、それは議会とはまた別にあるということですか。それは、市民の人がわからないのではないかと思うんですよ。つまり、議会というのは、学校の教育でも、そういうふうにとらえられているところもあるので、それと、場を設けるという言葉が全く別々のものなのか、これは包含しているものなのかがわかりにくいのではないかというだけです。別に議会を入れてくださいということではないのですが。そういうところを問われたときに、どうやって答えるんだろうなというのが、ちょっと感じていました。

#### 【委員】

その点、よろしいですか。議会が意思決定機関として言っていることで、ここでは主に担い手という部分での話をしていますので、その辺の混乱というのはある程度整理できると思いますので、潜在的にあるといえ、それでもう整理がついていることだというふうに、私は認識しております。

#### 【部会長】

ありがとうございます。私自身の意見は、その形なんですけれども、確かに議論して合意形成する場という表現からすると、議会というイメージが出てくると思います。朝も議論していたんですけれども、この「場」という言葉が、日本語的にはちょっと誤解を生じさせるかなという気がしておりました。私のイメージとしては、ある意味では、またもっとわかりにくくなるかもしれませんけれども、プラットフォームというものをつくるというようなイメージを持っておりまして、それを日本語にすると何になるのかなというのが、今、もう一つイメージできていないので、こういう文章になっているというふうにご理解いただければと思います。基本的に、今ここで言っている議論というのは、新しい公共サービスを提供する担い手、主体、そういうものが、どういうものになるかということを考える場ということなので、あくまでも担い手論をするところというふうに位置づけていただければと思います。表現については微妙なところがありますので、検討させていただきたいと思います。

#### 【委員】

私たち第3部会というのは、地域自治と公共の創造関連ということで、話を何回か進めてきたわけなんですけれども、ここの部分でも、今、まとめのところを見ますと、メモのほうで「新しい公共の創造」というタイトルが出て、ここら辺あたりは少ししっかり定められていると思いますが、地域自治というのは、ここは非常に薄いなという感じがします。地域自治ということもある程度話し合いをしてきて、地域自治というのを、市民がすごく担っていく部分は、これから大切だと思うのですが、このメモの裏表を見ると、そこに関するものがあまりないという。

では、どこら辺ということであれば、事細かく書くのはよいということではないのですけれども、文であれ、書くことであれ、抽象的なものよりも具象的な、具体的なほうがわかりやすいということであれば、例えば10ページの「新しい公共のあり方」の「地域にどのような公共サービスが必要であるかを考えて」あたりに書いてあることとか、11ページの「地域コミュニティの解決力の向上」というのは、これは行政側的な書き方がしてあるんですが。

では、地域自治を担っていく、いき方であったり、それをどういう人たちがというあたり、地域自治ということに関していえば、この新しいほうにはあまり入っていないのかな。私たち第3部会の主要な話し合いの2本柱であったわけですね。地域自治、公共の創造関連という。こういうことであれば、地域自治というのが、ここは希薄

であるという感じがすごくしました。だから、もうちょっと盛り込んでもいいのかなというあたり。これから非常に大切になっていくと思うし、市民が、ここをどのように担っていくか、もしくは行政からいろいろな部分が、そこへ渡っていくかとかというあたりが、長期ビジョンの、ビジョンの中身に大きくかかわってくると思うので、ここはもう少し入っていればいい。ざっと読んでも、そこら辺がすごく入っていないというか、わかりづらいというのかな、というのを受けました。

#### 【部会長】

どうもありがとうございます。表現的にちょっと弱いかもしれませんので、検討させていただきます。

#### 【委員】

こちらのA3の参考資料の全体の構成のイメージを見ていますと、先ほど本文のほうは書き過ぎじゃないかとか、あるいは足りないんじゃないかとか、いろいろなご意見もあったかと思うんですが、全体の構成を拝見していますと、構成自体は一応きちっとストーリーといいますか、流れがあって、わかりやすいのかもしれない。わかりやすいのではないかなという気はしているんですね。

ただ、先ほど来いろいろとご指摘がありますように、新しい公共の確立という、そこが最後の落としどころの基本姿勢のところに入るのだとすれば、ここで急に新しい公共の確立というふうに持ってくる以前に、横浜の将来像のところ、市民力と横浜らしさを両輪とした未来の創造になっていますけれども、ここの中に、もう1つ市民力と横浜らしさを受けてなのか、あるいは新しい公共の創造というものがあって、それを支えるものが市民力と横浜らしさという。このキーワードなのかというのは、これからさらに議論しなければいけないところかもしれませんけれども。このところに、要するに2ページの横浜の将来像のところ、新しい公共の創造というものをきちっとはめ込んでおく。それで、それぞれの各論が流れてきて、最後の、当初案でいけば「実現のための基本姿勢」というところなんですが、何を実現するのかというと、新しい公共の創造だということで、そうすると、先ほどのこのメモの(1)のところのはしがきの部分は、もしかすると、この2ページの将来像の中で、まず語られるべきところなのかもしれない。

では、私たちは、この新しい公共を確立する、それを実現するために何が必要かという、まず、大きなものとして「協働による大都市の運営」と。そこのこの文言がいい

のかどうかはまた別にしても、「協働による大都市の運営」というキーワードが一つ重要になってくるのではないかと。これが書き過ぎだとか、足りないというご意見もいろいろあったかと思うんですが、私はこのペラの表のほうの（２）の６、７行書かれてありますけれども、ここに書かれてあることが、ここに集約されていると思うんですね。私たちがこれから提言したいことが。私は当初、事前に配られた資料を拝見していて、市民自治という言葉がどこかにないのかなというふうな気がしていたのですが、きょう、これを拝見して、横浜をガバナンスしていく、共治というふうな書かれ方があって、これは非常に共感、共鳴する表現なんです。これがまさに横浜らしさというものにつながるのではないかとというふうな気がいたしますし、この中で市民力というものをごどう培っていくのか、それをどう表現していくのかというふうな書き方を、当初案のたくさんいろいろな案が提示してありますので、このところから拾い込みをしながら、再度構成し直していけば、非常にいいものができるのではないかなという気がしているのですが、いかがでしょうか。

**【部会長】**

どうもありがとうございます。解決策を提示していただけて、ありがたいです。

**【委員】**

言葉の中で、強調する意味で、どこに入れるか、行政のほうに入れるかどうかかわからないのですが、安全で安心して暮らせる社会とか、こういった文章を入れていただいたらよろしいのではないかなと思うのですが、強調する意味で、いかがでしょうか。

**【委員】**

今のは、都市像に書かれているのですが、原案では、都市像のⅠ番に書かれていると思うのですが。

**【部会長】**

都市像の中で、目指すべきものとして、安心、安全というのは出ているわけですが、新しい公共をつくるに当たっての基本的なところとして、少しそういった都市像との対応関係や何かを考えるという。皆さんの中に、前段とのつながりが非常に悪いというご指摘が多々ありましたので、そういう意味でも、少しつながりを持てるような形の表現の中で、５のところでも入れることが可能であるかどうか、ちょっと検討させていただきたいと思います。

5番に集中しておりましたけれども、全般でも結構でございますので。

**【委員】**

前回も、私、ちょっと言ったような気がするのですが、非常にカタカナ語というか、造語というか、一般的な人が読んだ場合に、耳にした場合に、パッと理解できる言葉かどうか定かではないのですが、私としては、大変勉強が進んでいないので、パッと日本語に変換できない面があることがあるわけです。できるだけこれは日本の国の言葉を使っていたら幸いに存じます。

**【部会長】**

事務局も大分苦労しているようでございますけれども、きょう出てきた新しい言葉としては、ガバナンスとコーディネーターですか。ガバナンスは、共治と。これはものすごい意識になるだろうと思いますけれども、ここで自治と経営という言葉からすると、いきなり共治と書くと多分通じないので、ガバナンスを先に出して、共治と補っていると思います。それに対してコーディネーターというのは、日本語に訳すのが、今のところうまくいっていない言葉ではないかと思います。これは、私が入れてくれと言った言葉なんですけれども、この間、たまたまシンポジウムで、中田市長が、これからは横浜市はコーディネーターに徹していきたいというような表現をされていたので使ったのですけれども、こういうところもできるだけわかりやすさ、ないしは補える日本語を入れるようにさせていただきたいと思います。

**【委員】**

その他ということで、それでは、意見を1つだけ。「めざすべき都市像」の、ほかの委員会でもご議論あったようですが、順番がこれでいいかというのもちょっとご議論いただけたらと思います。私も個人的に、安全都市というのは確かに大変大切なことだとは思っていますが、やはりビジョンを語る上では、より積極的というか、夢のあるというか、安全というのは、どちらかというとも基盤をしっかり守っていきましょうというところでの部分なので、むしろどっしり後側にしたほうが安定性が増すのかなという気がいたします。イメージの問題なのですが、優劣ということではなくて、見え方のイメージという点から、順番もちょっと考えてみたらいいのではないかなと思いました。

**【部会長】**

ちなみに起草委員会で、3部会のそれぞれの方の意見が全く合わなかったというのが実態です。ただ、私は、やはり経済に関係しているのと、都市もやはり経済がしっかり

していないと、何も始まらないですよというので、できれば活力から言ってほしいというようにことを申し上げたのですけれども、ただ、第2部会長は、むしろ交流拠点ぐらいから言って、快適で、その後、安全、活力というような順番でもいいのではないかと  
いうご意見で、どちらかというと、私はそのほうがいいかなというところなんですけれども、多分起草委員会で新たに順番のことは議論させていただくと思います。そういう  
点で、安心、安全という言葉を軽視するというわけではないのですけれども、結構微妙な戦いになるだろうとは思いますが。もし、環境が一番上に来たほうがいいのか、そういう  
明確なご意見がおありのようでしたら、今のうちに言っていただけると、根拠を提示  
できますので。

#### 【委員】

これは非常に難しいことだと思うんですけれども、例えばここを読んで、市民力、横浜らしさというのが2ページにあるわけですが、ここに文字が書いてあるんですけれども、例えばこの市民力というのは、どこかの都市で、日本の中なら簡単に視察に行くとか、聞くことができますが、例えば外国にも、これに合致するような都市が現実的にあるのかどうかということなんですね。2つ目の横浜らしさ、この文言に似たような都市がどこかにあるのかどうか。そういうところが現実的にあると、視察に行ったり、非常に理解しやすいわけなんですけれども。まず、これはちょっと無理かなとも思っていますけれども、この辺、どんなものでしょうか。ページを開いて、たまたまここを上げただけ  
ですけれども。

#### 【部会長】

いわゆる市民の力というか、市民が一生懸命やっている町ということですね。私が見る限りでは、アメリカはあまり知らないんですけれども、ヨーロッパの町というのは、小さい町や村の単位で非常にうまく住民がまとまって、そして市役所というか、役場もあるわけなんですけれども、商工会議所という単位とか、そういうところに人々が集まって、いろいろなことをやるということが比較的よくできていると思うんですね。全部皆さんボランティアでやっているわけですが。ですから、市民力というのは、そういうイメージだと思うんですね。もちろんないところもあると思いますけれども、何か一生懸命やっているところだから、見に行ったりしているんですけれども、自分たちの税金を使わないで、ドイツだと、巨大なメディアの財団が地方に助成金を出して、そういう活性化策をやるとか、そういうこともやられていますので、私は、広い意味では、あると思う

んですけれどもね。

ただ、日本があまりにもこういうものを、市民力といいながら、それは市がやればいいという形で、今まであまり真剣に地域住民がやるということがなかったのではないかなと思うんですね。小さい単位ではやられているんですけれども、ガシッとしたものができる上がっていないという、そういう意味で、ここは使っていると思います。「らしさ」のほうは、私もあまり自信がないです。

**【委員】**

わかりました。

**【委員】**

きょうが最後なので、グローバルな視点からも、あと、小さいところからも言って、またちょっと言葉のことなんですけれども、2ページのところの「2 横浜の将来像」というところがありますね。そこの中であつたりとか、市民力の中でも使われているんですが、例えば上のところだと、最初の文章だと、下から2行目、「そしてその想いと行動が」とありますね。やはり「想い」というのは、この「想い」なんですかね。すごくセンチメンタル趣味というか、「想い」という、この言葉、恋するときとかによく使うんですけれども。もう1つの「思い」かなとも思ったりして。これをこの「想い」にしたのは、何かあるんですか。今しか言うときがないので、とりあえず細かいことも含めて、疑問に思った点を言いますと、この「想い」は、何かわけあって、この想いですか。

**【事務局】**

この「想い」、漢字の使い方については、特に思い入れがあって使っているわけではないんです。この部分については、外づらといいますか、見た感じのイメージというものもあるのですが、漢字の使い方については、またこれから第3回の起草委員会までに全体を見直して、調整を図ってまいりますので、今はこの漢字を使わせていただいておりますが、そのほかの部分についても、単語の使い方とか、あとは漢字の何種類かあるようなものについては、どれが一番ふさわしいかというようなことは再度検討させていただきたいと思います。

**【委員】**

あと、「町」も、あえて平仮名がよく使ってありますよね。町というのは、あの小さな町内の「町」であつたり、よく言うように、「街」であつたりとか、その字の持つイメージもあるから、あえて「まち」という平仮名で、どのようなとらえ方もしてもいいのか

な、書いてあるのかなとは思ったんですけども、そういうところもお願いします。

**【部会長】**

いいですか。ほか、表現関係は。きょうは、表現とかキーワードなどもご指摘いただきたいですし、先ほど委員からもありましたようなところのキャッチフレーズなども少しご指摘いただけたらと思っておりますので。

**【委員】**

例えば市民力のところの「横浜の特徴であり、最大の活力は」というので、「人材と市民活動」です。「活力は、人材と市民活動」か。例えば「活力源は」とかと言うのか、「特色は」とかなんだけれども、ここは何かおかしくないといえればおかしくないんだろうけれども。

**【部会長】**

きょうの場でも結構ですし、次は28日に起草委員会がございますので、それまでに、細かい表現に関しましても、もしお気づきの点がありましたら、どんどん出していただきたいと思います。ちなみに、私が一番気になっているのは、「そして」という接続詞がやたら出てくる。これは、文章を書かれる方のくせだと思います。

**【委員】**

あと、「でしょう」という言葉。最後に、「でしょう」、「でしょう」、「でしょう」。これは、こういうのが決まりなのかな。

**【部会長】**

これは、そういう形で表現してみたということだと思います。ですます調で一応書いていますので、その中でも一つ、この「めざすべき都市像」は全部「でしょう」でまとめようとされたのだと思います。そういうところもご指摘いただいたらいいのではないかと思います。

**【委員】**

先ほど他都市との関係ということでご意見ございましたけれども、もちろんそれが参考になるような都市であれば、よりいいという一方で、やはり横浜市オリジナルティというのであれば、これまで使われてこなかった新しい概念を提起するというのは非常に重要だと思うんですね。そういった意味では、市民力という言葉は、一つの新しい概念、キーワードになるのではないかなと。ただ、気になっておりますのが、むしろ「新しい公共」というのが少し気になっておりまして、これは、横浜市というよりも、

例えば大和市などで、「新しい公共を創造する市民活動推進条例」というようなものがあったり、かなりここで、新しい創造を定義されている内容が、既にもう他都市で議論されているようなところもあるということからすると、場合によっては、新しい公共の創造だけではなくて、共治と新しい公共とか、共治という言葉、例えば先ほどおっしゃったガバナンスというような言葉とあわせて、少しキーワードといたしますか、重要な主要概念として持ってくるほうが、オリジナリティーが少し出せるのではないかなというように気もしております。それが1点目です。

そこで、新しい公共であったり、ガバナンスである協働ということを、横浜市ならではの形で表現していただいた上で、2点目が、先ほど委員がおっしゃったことの繰り返しになるのですけれども、そこが横浜の将来像のメインキャッチフレーズまでにはいかなくとも、やはり市民力との関係で、あるいは次の段階の「めざすべき都市像」の段階で、その言葉が表現されているということが、全体の構造の中で非常に重要になってくるのではないかと。その辺は、他部会の先生方との調整を是非していただければと思います。

それと、これは感覚的なものなのですけれども、部会長メモで書かれたものは、先ほどちらっとおっしゃったんですけれども、自治基本条例とか自治憲章のような表現になっているので、これをどういうふうに、そのままよいのか、あるいは少しビジョンに合ったような形で整理し直すのかというのは、また部会長のほうでご検討いただければと思います。

#### 【部会長】

ほか、いかがでございましょうか。

#### 【委員】

先ほどちょっと出ていました、「私たち」という言葉ですね。これ、ほかだったら、行政だったら、あるいは私達だったらどういう言葉を使うかなと思って考えていましたら、「市民」という言葉を多分使っているだろうなと思うんですね。今回のこれは、ここに「私たち」ということは数多く出ているのですけれども、やはり個人個人が自分の考えや意見等を主張するためには、「市民」と書くよりも「私たちは」と書いたほうが良いような感じが、私はちょっとしたんですけれども。そのことが、さっきご意見を聞いていて、どうなのかなと考えていまして、きょうで最後だそうなので、ちょっと言わせていただきました。

**【部会長】**

どうもありがとうございます。いかがでしょうか。

**【委員】**

細かなことでもいいですか。遠慮しようかと思っていたのですけれども、非常に細かな、瑣末なことで申しわけないんですが、1個だけ申し上げますと、7ページの(6)の3つ目の黒丸、「日本人だけでなく外国人にとっても暮らしやすい」云々とあるんですけども、サラッと読んでいて、ここがちょっとひっかかりを持ったところでして、何となく日本人とか外国人という表現が、ここで既に区別してしまうところが、どうなのかなという印象がありまして。「国籍にかかわらず、だれにとっても」とか、何か表現の仕方もあるのかなという気はしたのですが。受け取り方は人それぞれですので、単なる意見として申し上げるだけです。

**【委員】**

私も2点だけ言いたいのですが、1つ、先ほどから出ている言葉の問題なんです、やはりなるべくわかりやすい言葉が多分いいと思うんですね。それで、その場合、2つ気になることがあって、1つは、結構長く使わなければだめな計画なので、今、使っている言葉が今後も使われるかということで、例えば9ページの情報関係のところ、ICTとかユビキタスネットとか書いているんですね。これ、10年後は多分使っていないと思うんですね。書くとしたら、これはなるべく別な言葉で、もうちょっと置きかえたほうがいいのではないかとというのがあって。もう1つ、うちの部会だと、ガバナンスということがあって、これもやはりうちの試験の行政学の問題で、ガバメントからガバナンスへという、ちょうどよく点数が割れるぐらいの問題だと思うんですね。ただ、部会長が言われたように、どうしてもキャッチフレーズ的に使わなければならない場合はあると思いますので、かなり絞って、象徴的に使わざるを得ないのではないかとというのが1つありました。

それからもう1つ、先ほどの議会の役割とか、議論があったときに思ったんですけども、結局今回も伝統的な基本構想のつくり方と同じ形をしているので、結局もともとは行政がする、執行部局がやる大きな計画を出して、それを議会が承認するというというのがベースにあるんですね。だから、議決の手続もとるという形になっているんですよ。ですから、今回はもうちょっと行政以外の部分も含めていろいろと書こうという趣旨はわかるんですけども、ベーシックとしては、ただ、この中で、じゃあ、横浜市と

して、ベーシックなことで、何をやっていくのか。公約したことについて、市民の代表である議会の人が議決するという大きな線はやはり外せないで、そのところで、この計画を通じて、横浜市が具体的に何をやるかというのを、なるべく書かれるのがいいのではないかと思います。

先ほどの全体の分量に関して、多いとか少ないとかいう議論があったんですけども、多分抽象的にいろいろと書いているので、長さのわりには、あまり具体的なことは詰められて書いていないような印象が、どこかあると思います。こういう計画をみんなで作っていくので、大変だと思うんですけども、最後に言葉を精査していただけたらと思います。

#### 【委員】

全く小さい話ですが、8ページのところの下から2つの黒ポチのところの、いわゆる「職・住・楽」、これがあるんですけども、ここに「駅を中心に」という言葉がありますね。この駅というのを、どういうふうに見るのか。区の単位とか、いろいろな議論もありましたけれども、では、駅というのはどういうふうに見ていくのかということが、少し気になったものですから。そのことは間違いではないのでしょうけれども、基本的にはそういう進め方がとられるでしょうけれども、全体にかかるときに、駅ということをごここに入れておくのがいいのかどうかという、少し気になりましたので、ご検討をお願いしたいと思います。

#### 【部会長】

ありがとうございます。

#### 【委員】

新たに書かれたほうの企業のところなんですけども、企業の期待されているのか、期待するかというときの位置づけがちょっといくつかばらけているのではないかと。例えば、企業は人間と同じ法人という人格を持った組織としてとられているのか、それとも企業が公共のサービスを担う企業なのか、担う人としてとらえているかということで、多分期待されるものが違うと思うんですね。そういう意味でいうと、丸が3つ書いてあると思うんですけども、この辺のところはもうちょっと、そういうのがわかるように書いていただいたほうが、企業に勤めている人たち、もしくは企業の経営者たちは、自分たちが何を求められているかというのがわかるのではないかと思います。

そういう意味で、私、1つだけ、全体の中で、位置づけで書かれていないなという感

じがするのは、卑近な例で恐縮ですが、私もサラリーマンを何十年かやって、超勤が多過ぎる。残業が非常に多いような都市になっているのではないかと。それが、最近の若い方々のいろいろな事件等が引き起こされている。安全とか安心とか、豊かなという表現がされているわりには、そういうところが一つも出ていない。企業が、もしも市民として貢献していただけるのであれば、やはりそういう、家庭なのか、地域社会だかわかりませんが、そういうところに、企業に勤めている企業人が、やはりその時間を費やすことができる、そういうことを提供するんだというようなところも、この企業の中にあってもいいのではないかと。この企業のとらえ方がどういう方向でとらえているかによって、書き方は違うと思うんですけども、そういう点が、私もすべて読み切れてはおりませんが、違うところの議事録を読んでいる限りでは、あまり取り上げられていない。それがかなり大きな話題になっているし、見ていると、10年前から書いているようなことばかり書いてあるんですが、これから20年後に向けて、そういうところをもう少し問いかけるべきではないかと。そういうものが、ビジョンにあってもいいのではないかなという感じでは受けました。

それから、この視点もあまり書かれていないと思うんですが、家庭生活、まさにファミリーなのか、家庭だか、いろいろな枠組みがあると思うんですけども、そういう中で分担されてやられていることが、仕事としてとらえられていない。家庭で勝手にやってください、洗濯もやってください、子育てもやってください、それらがすべて個人の生活の中で解決しなければいけないという枠組みでとらえられていると思うんですけども、やはり社会として、それぞれが個々の組織の中、家庭という、もしくは組織があるとすれば、その中で行われている仕事としてとらえたほうがいいのではないかと。そうすることによって、シームレスというか、つながりのある、自分たちの生活から社会の生活がずうっとつながっているんだよということがもう少し浮き彫りになるのではないかなという感じを受けます。そういう観点からの議論というか、言葉が一つも見当たらない。何か自分の生活と関係ないところに、こういう言葉が羅列されているような感じを受けるんですね。まさに抽象的に書かれているということが、そうかもしれませんが。この時点で言うのは、まことに恐縮でございますけれども、そういう視点というのが、何かどこかに反映したほうがいいのではないかなという感じがいたします。

**【部会長】**

今のご意見は、5の中にとのことですか。

【委員】

5か、全体だと思うんですけどもね。

【部会長】

全体の中でということですね。

【委員】

ええ。5では書けないと思います。

【部会長】

わかりました。

【委員】

最後に確認といいますか、委員がおっしゃったように、これ、基本構想という意味では、横浜市はどうしていくかというところが、具体的に何を実行していくのかというのが明確になっている必要があるという意味では、冊子のほうの11ページの経営の視点が、部会長のメモでは少しないというふうに見受けられるんですけども、非常にこの部分が重要で、場合によっては、部会長のメモの「行政」というところに入るのかもしれないし、どういう位置づけになるかわかりませんが、ここは必ず入れておいていただけると理解していたんですけども、それでよろしいでしょうか。

【委員】

私もいいですか。今と同じような意見なんですけれども。確かにこの11ページの「都市経営の進め方」というところでは、これは、書き方としてすごくわかりやすいですよ。具体性もあるし、大きく黒字で書いてあって、中にこう、こう、こうという。それが、このメモのほうの2行、コーディネーターとしてやるということと、しっかりと行政が対応すべきとかよりも、コーディネーターとしてということだけがバツとあると、わりと市民任せではないけれども、行政は行政として、絶対に本来やるべきことはいっぱいあるわけですね。そういうあたりの打ち出し方は何もなくて、ただコーディネーターということだけが、ここではすごく印象を受けるんです。

市民にやってもらえばいいじゃないかなことではないかもしれないけれども、そういうふうなところをすごく受けるので、やはり11ページのところの、ここは、市が市として、行政が行政として大切なことがものすごく書いてあるんですよ。経営の進め方の中。ここら辺はもっと堂々と載せるべきというか、ちゃんと載せるべきだと思う。市民があって、やはり行政もありなので、メモのウのたった2つだけではとても物足りない。そ

こら辺のことは、もっとしっかりはめ込んでいったほうがいいと思いますけれども。

**【部会長】**

ちょっとガラガラポンをし過ぎて、肝心なところが抜けたというのが、きょうのメモの反省点として考えております。

ほか、よろしゅうございますでしょうか。時間が来てしましまして、まだご意見が十分出していない部分があるかもしれませんけれども、基本的にきょうの審議も踏まえまして、それから先ほども申し上げましたように、28日に起草委員会を開催いたしますので、それまでの間、事務局からすると、できれば25日ぐらいまでに、細かい点も含めましてご意見をいただければありがたいのではないかと思います。できるだけ早く出していただければ、もっといいと思います。そして、5のところにつきましては、私のほうからももう一回意見を出させていただいて、それを皆さんに見ていただいて、28日の起草委員会への答申案というものを作成させていただきたいと思っております。

それから、12月6日に答申案が最終的に総会で確定するという予定でございます。答申案につきましてはあらかじめ皆様のほうにもお送りさせていただきますので、再度そこでご意見等をいただきまして、修正して、何とかやらせていただきたいと思っておりますので、先ほど申し上げたような、25日までをお願いしたいと思います。

それから、あとは事務局からの連絡ということになります。

事務局から日程等の連絡

**【部会長】**

これで、一応第3部会の審議は終了させていただきたいと思っております。本日は、ご苦労さまでした。閉会の辞とさせていただくと同時に、部会としては、これが最後になりますので、ご協力、ほんとうにありがとうございました。あと、最後のまとめの段階まで、もうひとかたご協力のほどをお願いしたいと思います。読んでいまして、まだ文章的にはこなれていないところが多々あると思っておりますので、細かい点まで含めてご指摘いただけたらと思います。それでは、ほんとにどうもありがとうございました。

— 了 —